**コラム③　国際協同組合年とは　世界の協同組合**

【地球規模の協同組合】

私たちが日頃から利用している農協（JA）や生協などの「協同組合」は世界中に存在します。世界の協同組合の連合組織である「国際協同組合同盟」（ICA）には百カ国の協同組合組織が加盟し、その加盟組織の組合員総数は延べ10億人を超えます。国による制度の違いはありますが、それぞれの協同組合は、協同組合の世界共通のルールである「協同組合のアイデンティティに関するICA声明」にのっとった運営を行っています。現代につながる生協はイギリス、農村・都市部の信用組合（銀行）はドイツ、デンマークの酪農協同組合やフランスの労働者協同組合など、協同組合の多くは、19世紀半ばのヨーロッパで誕生しています。いずれも産業革命が進展し、資本家と労働者という階級格差、都市と農村という地域格差が生まれる中で、一人ひとりは弱い立場の人々が連帯してより良い生活や仕事を求めて協同組合が組織されました。

【各国の特徴】

現在でも協同組合は世界中で人々の生活の向上やより良い仕事、持続可能な社会の実現のために活動しています。スイスでは２つの生協で食品小売の70％を超えるシェアを有しています。ニュージーランドの酪農協同組合は同国の輸出額の25％を占めるほどの影響力があります。スペインのバスク地方は労働者協同組合が地域経済を支えており、協同組合は、工業生産から小売、金融、教育まで運営しています。イタリアや韓国では大規模な生協や農協とならび、地域の課題解決のために小規模な協同組合が活動しており、公共的な事業を行ったり、障がい者や移民、元受刑者など様々な課題を抱えた人々の雇用創出の場にもなっています。また、ドイツでは地域住民が自然エネルギーを利用した電力協同組合を立ち上げてエネルギーの地産地消を行っています。イギリスでは、サポーターが組合員の協同組合形式のサッカーチームや、地域住民が組合員のパブが存在しています。

2025年は国連が定めた国際協同組合年です。世界の協同組合と交流・連携しながら日本の協同組合も持続可能でよりよい世界を築くために貢献することが求められています。

（2025国際協同組合年全国実行委員会　事務局

：一般社団法人　日本協同組合連携機構）